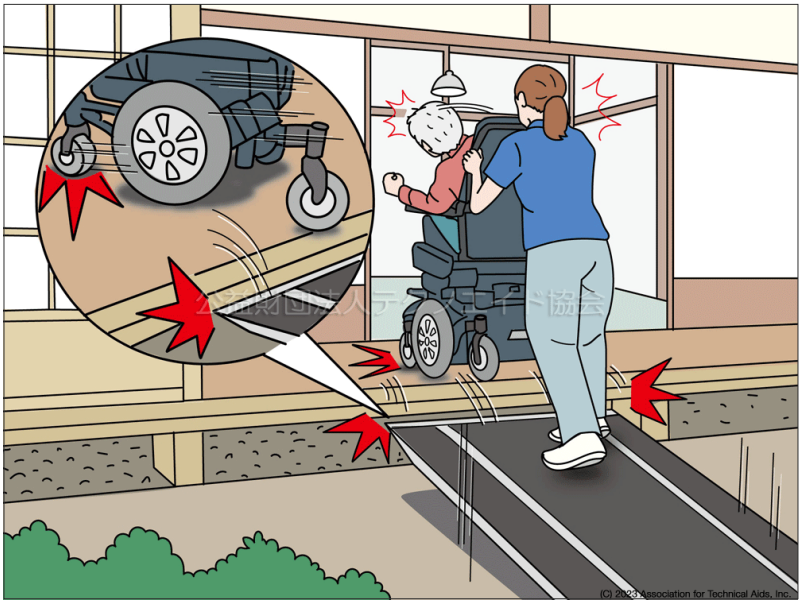
Case：375

電動車いすの駆動輪の勢いでスロープが後ろに蹴りだされ、外れそうになる

場面の説明

介助用の６輪電動車いすでスロープを昇る際、駆動輪の勢いが強く、上段部分でスロープが後ろに蹴りだされ、外れそうになった。



利用シーン	移動
主な利用場所	段差・縁石
介護保険の種目	車いす
分類コード(CCTA95)	122121(電動介助用車いす)
介護テクノロジー	－
二次元バーコード	

解説

特に６輪の電動の車いすでは、駆動の力の反作用でスロープを後ろに蹴りだそうとする力が働きます。スロープが後方にズレて落下すると介助者を巻き込んで転落するなど、重大な事故につながることも考えられます。電動の車いすを利用するときには、スロープに付属しているゴム製のズレ止めだけではなく、地面に杭を打つなどズレにくくする工夫が必要な場合があります。

参考要因

人：ゆっくり進ませる慎重なアクセル操作ができなかった
モノ：長年の使用でズレ止めのゴム面が硬化していた
環境：狭いスペースでスロープ角度が急だった
管理：ズレ止めゴム面の点検が項目に入っていなかった

Copyright 2000-2012 Association for Technical Aids, Inc. All rights reserved.